

H8S/BOOT-PBCタイプでデバッグ用ポート以外のモニタを他社ライター用HEXファイルに作成する方法

Rev1.00 2007/12/14
DEFバージョン 6.70A仕様より

【対象CPU】

H8S/2238B・R、2239、2258、2633・R、2636、2638、2639が対象になります。

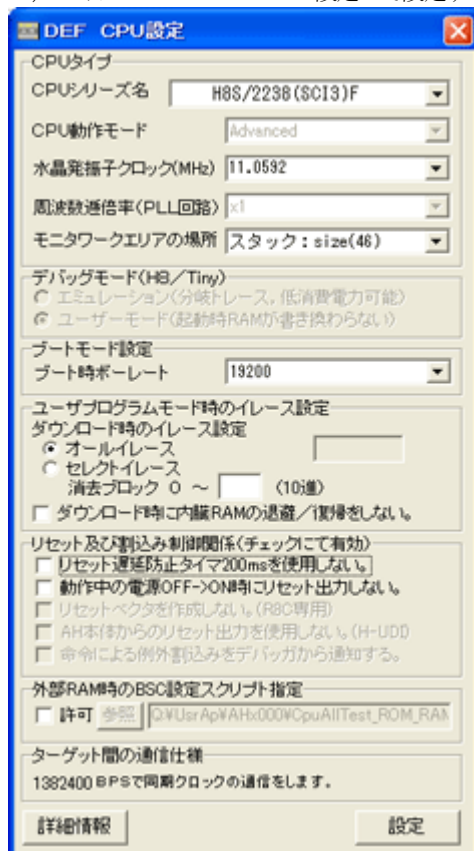
【概要】

この対象CPUは、デバッグ用ポート（SCI）をブートポート以外のポートを指定することが出来ます。
ハード構成の都合により、H debuggerと接続する為のデバッグポートが準備できず、他社フラッシュROMライターで初期モニタを書く場合のモニタファイル（HEX）を作成する方法を説明します。

【初期時の手順例】

H8S/2238Fの（SCI3）をデバッグポートとした場合の手順例を説明します。（ブートポート：SCI2）

1) <オプション>-<CPU設定>で設定する。

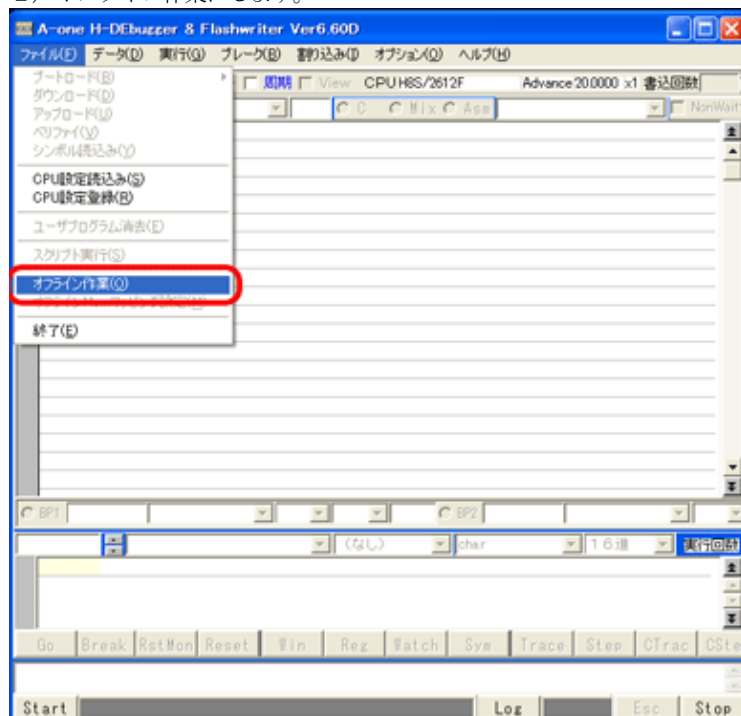


<- H8S/2238 (SCI3) F を指定する。

<- ターゲット基板に付いている発振子クロックを指定する。

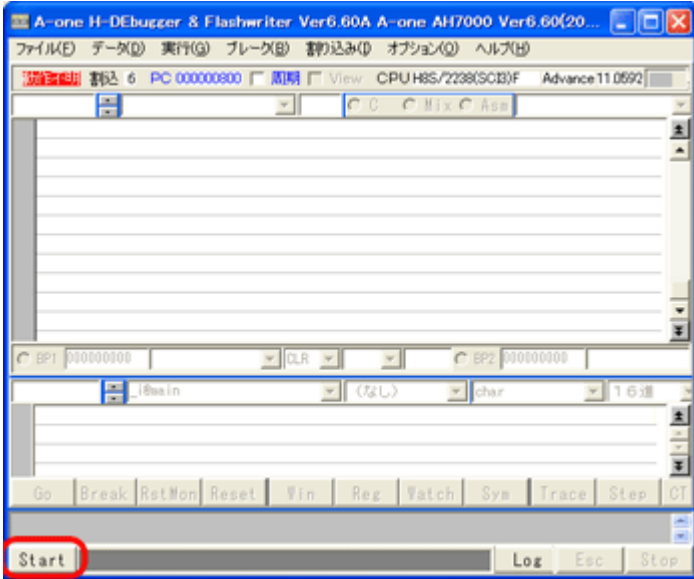
<- 「設定」をクリックします。

2) オフライン作業にします。

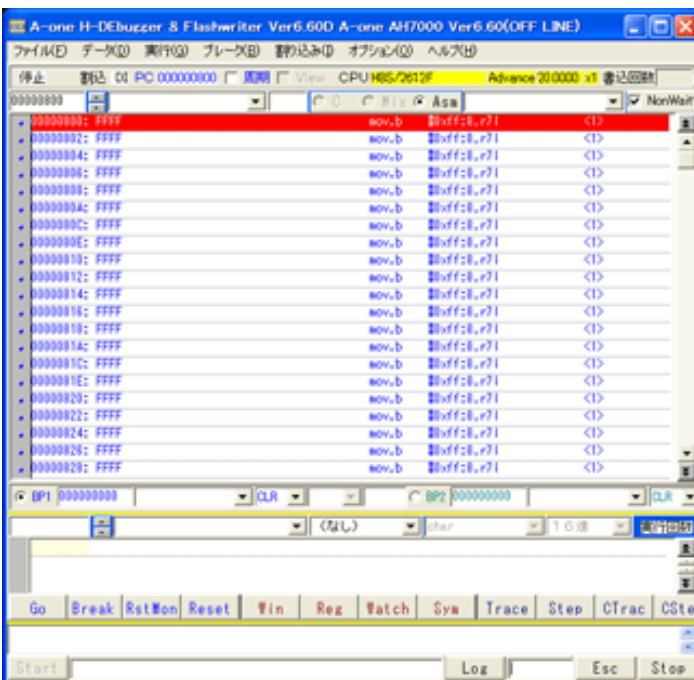


<- <ファイル>-<オフライン作業>をクリックします。

3) コントロールソフト (DEF) の左下PBの「Start」をクリックします。

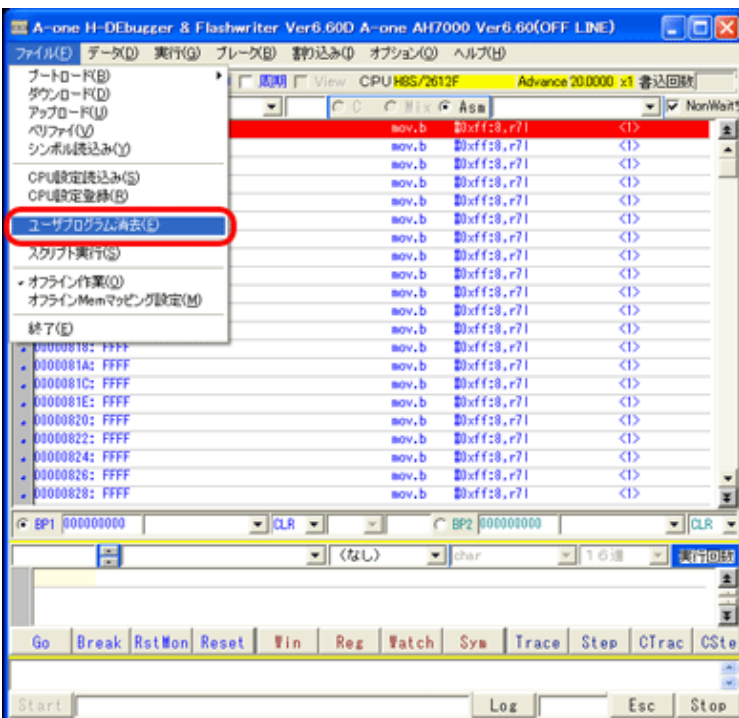


← 「Start」をクリックします。

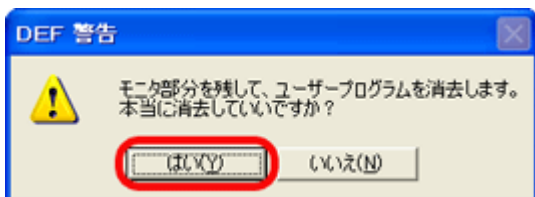


View画面は左のようになります。(ALL 0xFF)

4) ユーザプログラム消去をします。

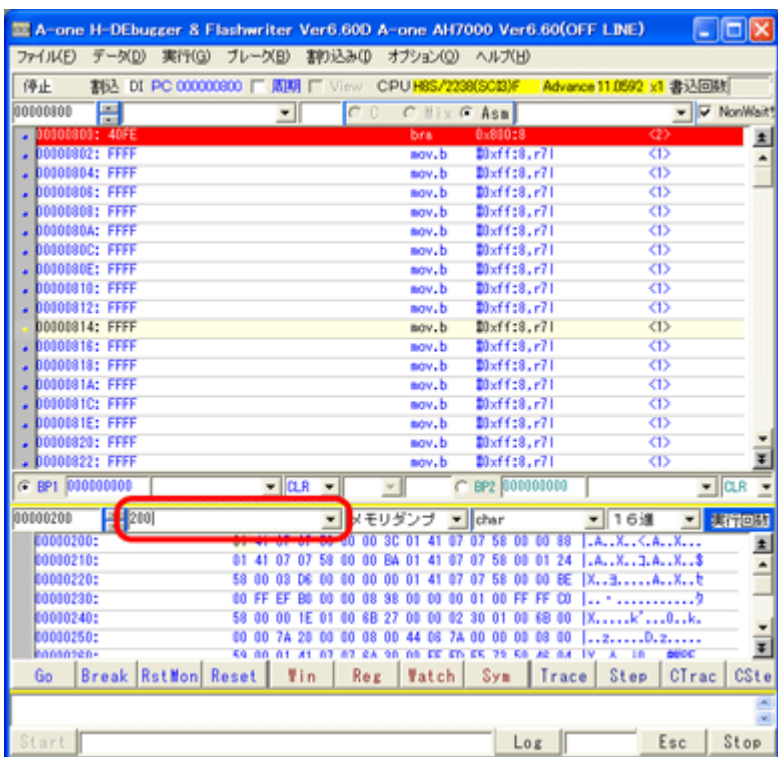


← <ファイル>-<ユーザプログラム消去>をクリックします。



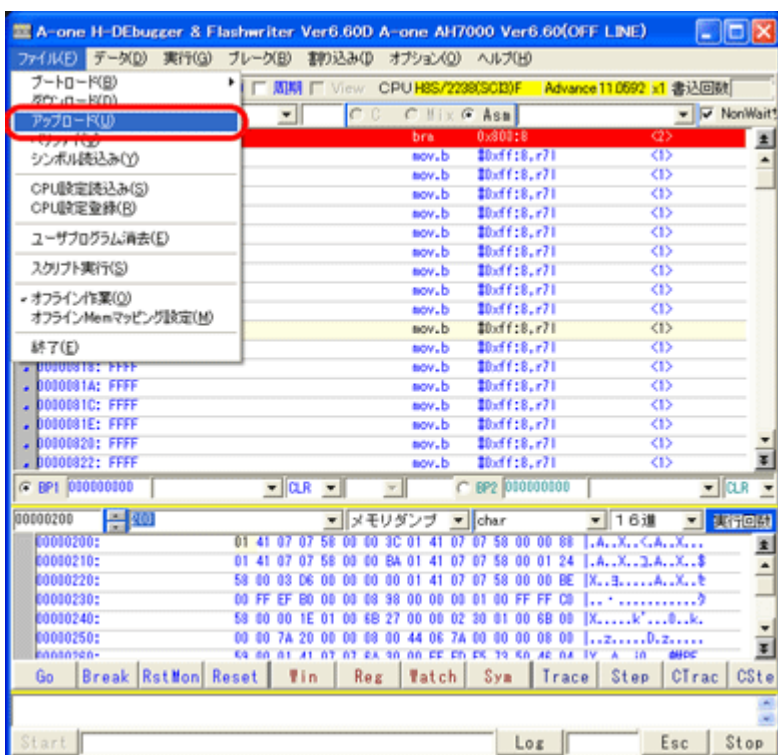
← 「はい」をクリックします。

5) モニタプログラムのデータ確認をします。



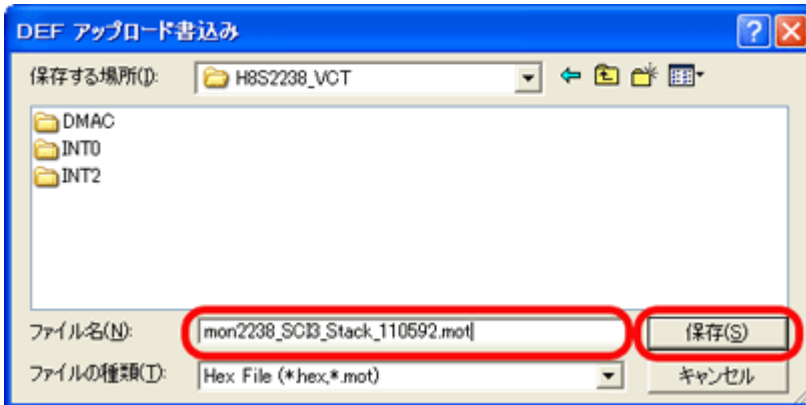
← ダンプ開始アドレスを「0x200 モニタ開始番地」にし、データがある事を確認します。

6) モニタプログラムのアップロードを実施し、モニタファイル (HEX) を作成します。



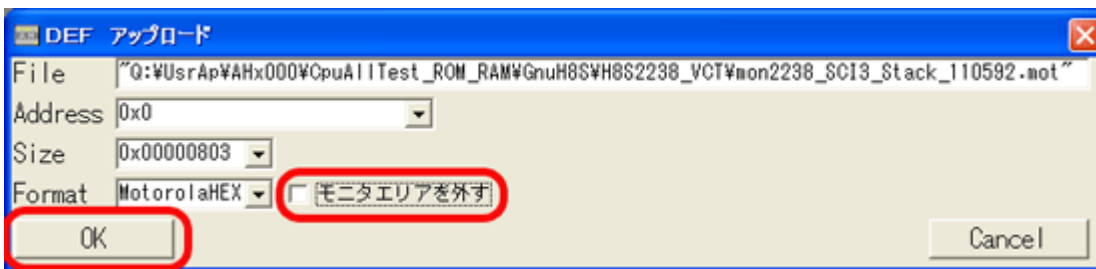
← <ファイル>-<アップロード>をクリックします。

7) 作成するモニタファイル名 (HEX) を指定します。



← モニタファイル名を任意に指定後、「保存」をクリックします。
ファイル名には、他社ROMライターで認識可能な名前及び拡張子を付けて下さい。
例) 「mon2238_SCI3_Stack_110592.mot」等

8) 作成するモニタファイル (HEX) の仕様を指定します。



← Address/Sizeは、デフォルトのまま
で良いです。

←必ず「モニタエリアを外す」のチェックを外して
下さい。(ノーチェック状態)

←「OK」をクリックします。

9) この一連の操作によりブートポート以外のSCI用モニタが作成されますので、他社ライター (FDT等) で作成したモニタファイルを内蔵FROMiに書くことにより初期モニタが登録されます。

＜ファイル＞→＜ブートロード＞→＜モニタプログラム＞を実施した場合と同じ結果になります。

作成例) ファイル名 : mon2238_SCI3_Stack_110592.mot
0番地 → 0x802番地のモトローラ (Sフォーマット) のHEXファイル

以上